道南太平洋海域スケトウダラニュース

令和４年度　第３号　　2023 年 1 月 24 日

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構
函館水産試験場　調査研究部
TEL：0138-83-2893　FAX：0138-83-2849

令和４年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（３次調査）結果

函館水試試験調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- 調査期間：2023 年 1 月 12～14 日（刺し網漁獲物調査 2023 年 1 月 17 日）
- 調査海域：道南太平洋の水深 50～500ｍの海域（図 1 右上）

・スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期をやや上回った。
・魚群反応の強い海域は胆振沖（白老～苫小牧沖）。
・反応の比較的強い水深は 90～150m 付近。
・刺し網で漁獲されたスケトウダラの生物測定を行った結果、体長（尾叉長）は 45～50cm 主体（モード 47cm）であった。

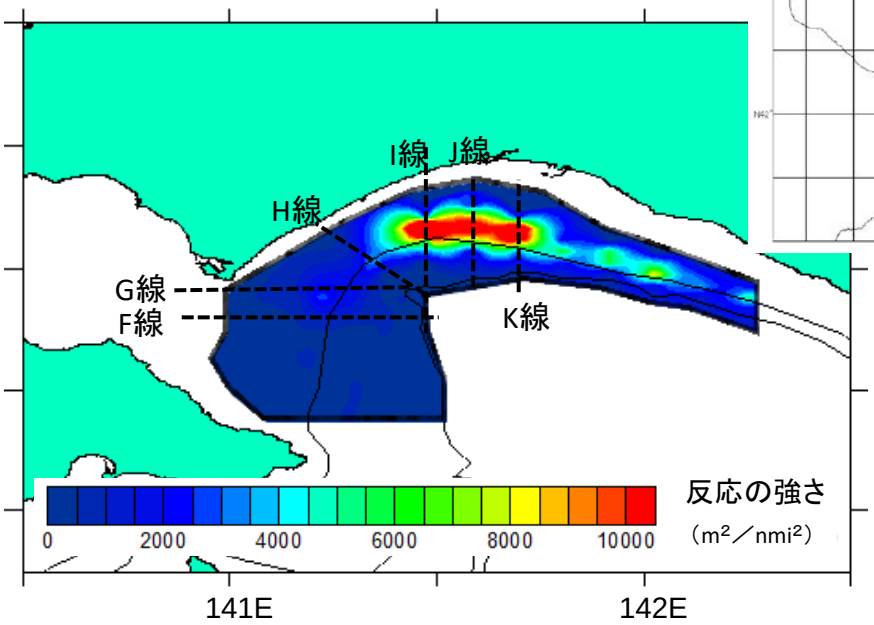
1．今回の調査は、荒天のため調査期間が短縮されたことから、日高沖の Q～R ラインの計量魚群探知機による観測はできませんでした。このような状況下でしたが、スケトウダラとみられる魚群反応は、調査海域ほぼ全域でみられ、とくに胆振沖の 179・182 漁区（白老～苫小牧沖）には強い反応がみられました（図 1・2）。

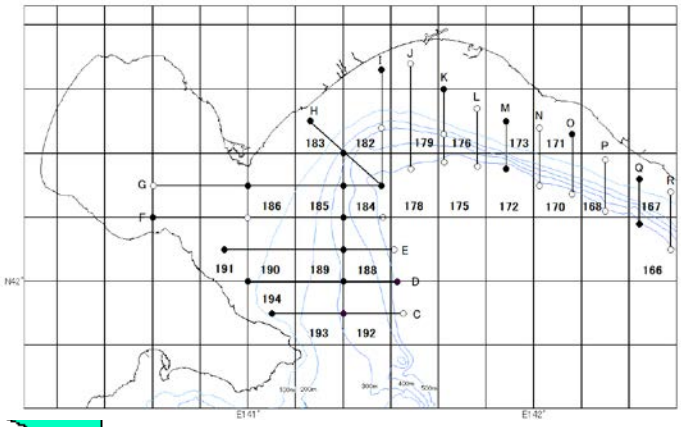
2．渡島沖から胆振沖にかけての平均反応量は、昨年同期をやや上回りました（図 3）。

3．魚群反応は、水深 50m 以深の広い範囲で観察されましたが、その中でも水深 90～150m 付近に強い反応がみられました（図 4）。とくに胆振沖（I～K 線にかけて）の陸棚上（水深 100m 前後）には強い反応がみられましたが、海底から離れた（浮いた）反応が主体となっていたことから（図 2-2）、海底に敷設する刺し網にはスケトウダラが掛かりにくい状況になっているものと考えられます。

4．今年度の調査では、トロールによる漁獲調査ができなかったため、漁獲物の組成については、金星丸調査の後に行った刺し網漁獲物調査（登別沖）の結果をお知らせします（栽培水産試験場実施）。刺し網漁獲物の体長（尾叉長）は、45～50cm 主体（モード 47cm）となっていました（図 5）。また、成熟状態（メス）を調べた結果、7 割程度がすでに完熟卵（水子）となっており、産卵が終了した個体も 1 割程度確認されました（図 6）。

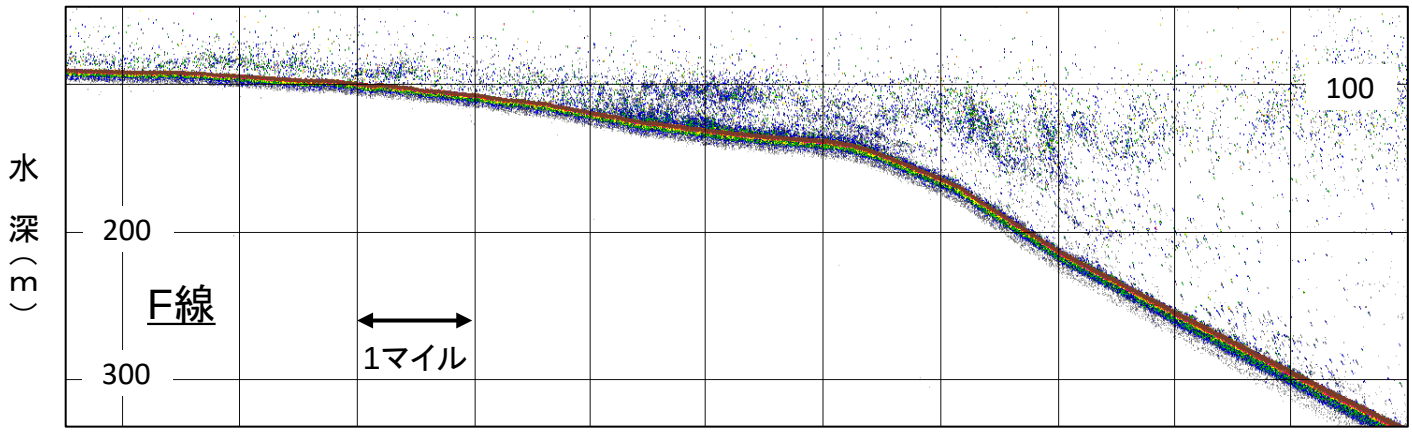
なお、今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。





※今回の調査では，荒天により調査期間が短縮されたため，Q～Rラインの計量魚探観測はできませんでした。

図1　調査海域における魚群の分布（右上図は調査海域図）



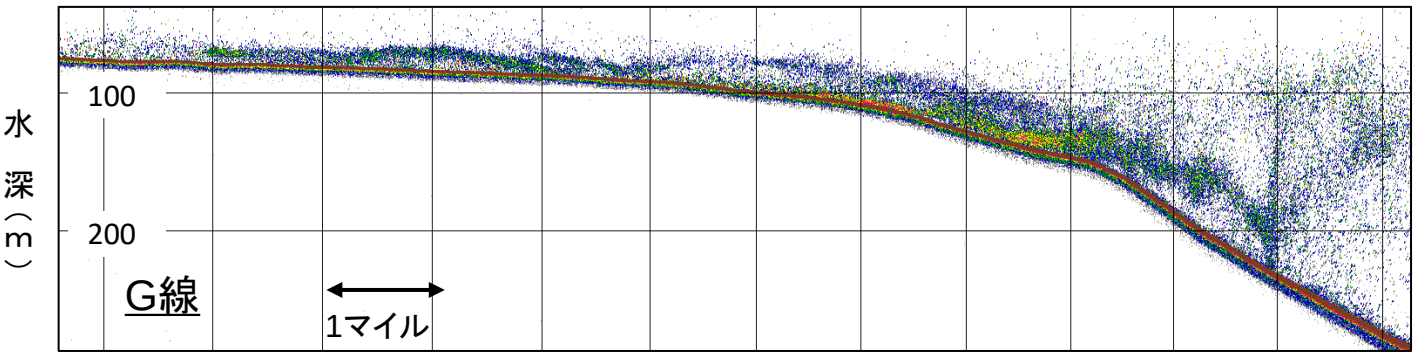


図2－1　魚群の分布状況（計量魚探画像）

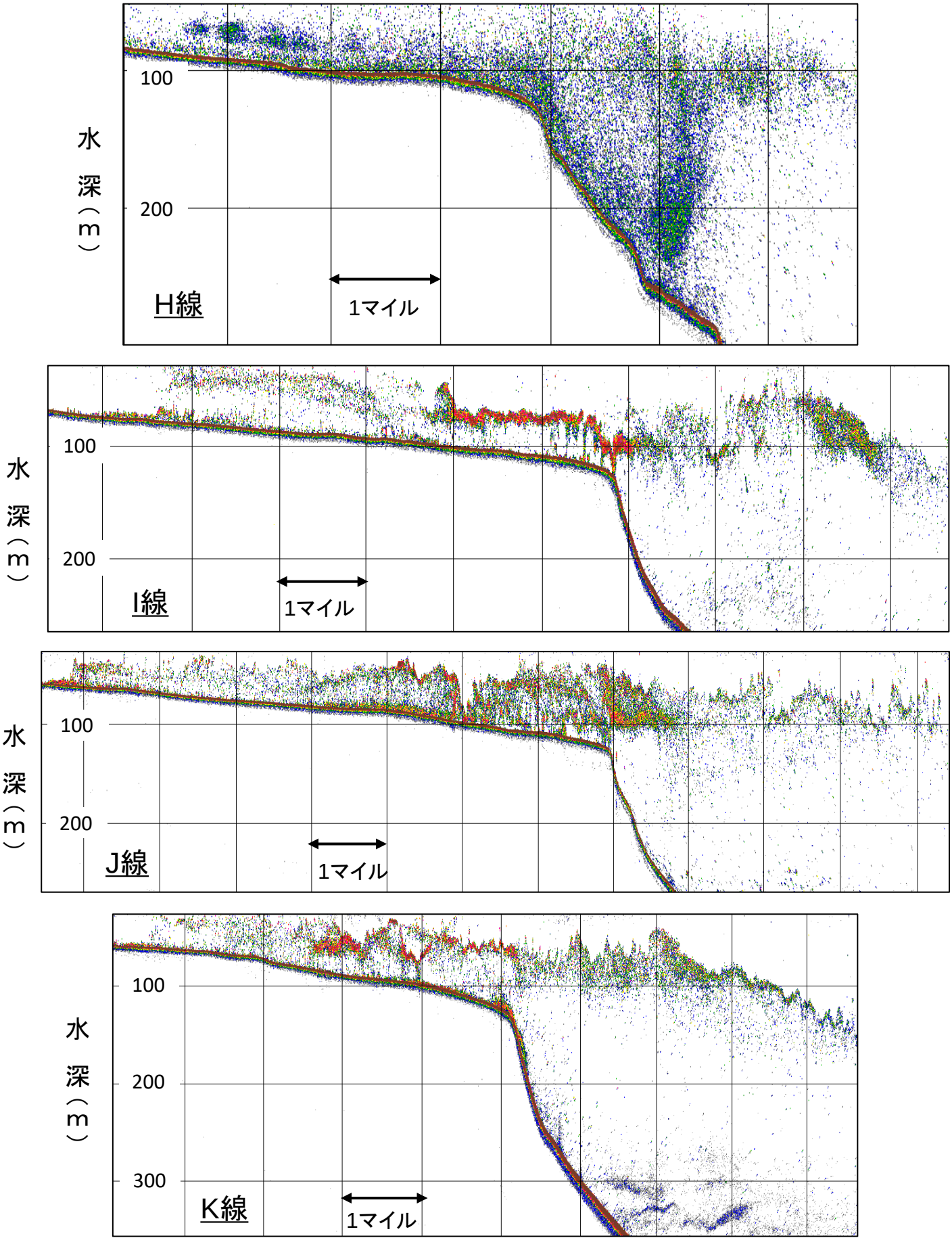


図2－2　魚群の分布状況（計量魚探画像）つづき

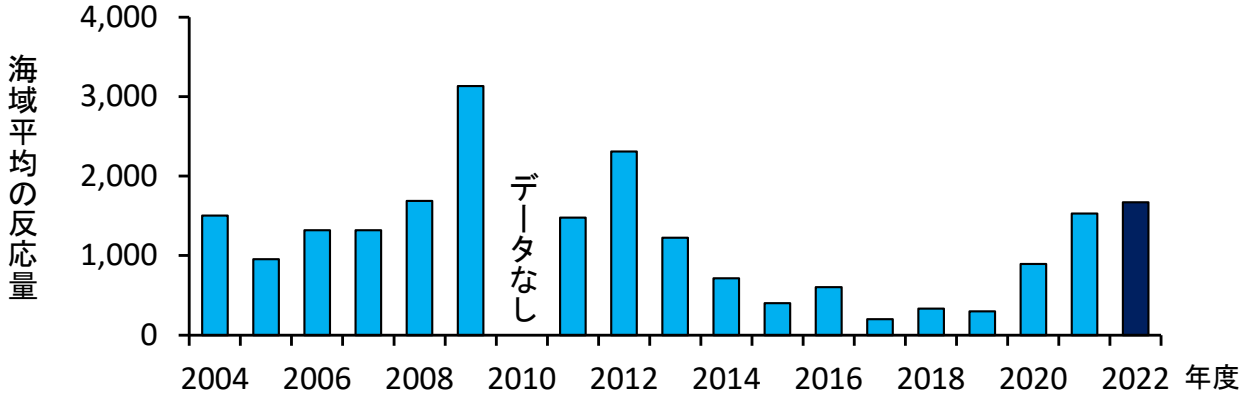


図3　調査海域における魚探反応量の推移

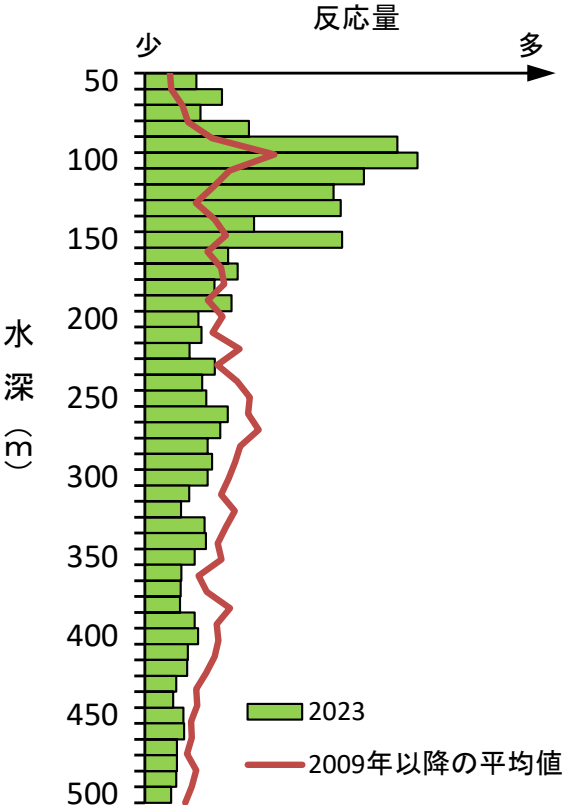


図4　水深別の魚探反応量

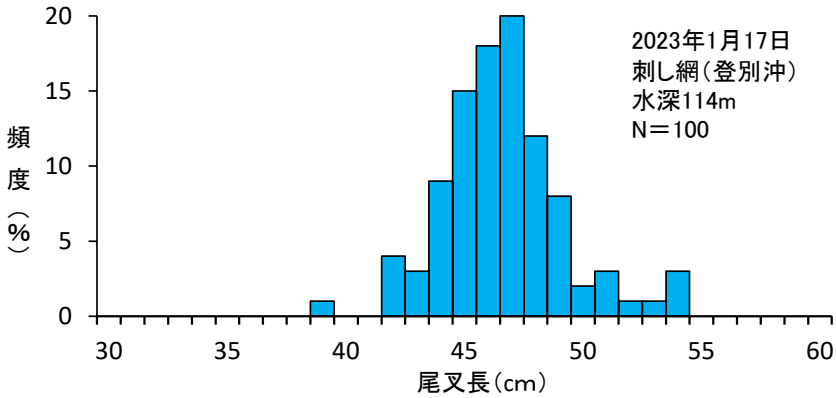


図5　スケトウダラ刺し網漁獲物（登別沖）
の体長組成（栽培水産試験場測定）

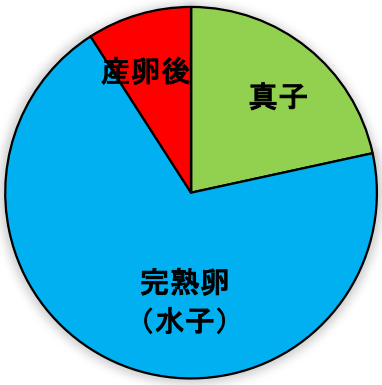


図6　漁獲物の成熟状態（メス）
左：沖底漁獲物，右：刺し網漁獲物